

## 短 報

ミヤマスカシユリの新分布 (大橋広好<sup>a</sup>, 吉田 繁<sup>b</sup>, 上野雄規<sup>c</sup>)  
Hiroyoshi OHASHI<sup>a</sup>, Shigeru YOSHIDA<sup>b</sup> and Yuki UENO<sup>c</sup>: New Distribution of *Lilium maculatum* Thunb. var. *bukosanense* (Honda) H. Hara (Liliaceae) in Tohoku District, Northern Japan

ミヤマスカシユリは埼玉県武甲山で発見され (本田 1942), 次いで茨城県久慈山地から報告され (鈴木・埴 1965, 鈴木他 1981), 両県にのみ分布することが知られている (佐竹 1982, 清水 1987). 環境庁 (編) のレッドデータブック植物 I (維管束植物) 2000 では武甲山を挙げ, 石灰岩の採掘のために絶滅した可能性が高いとして, 絶滅危惧 IA 類 (CR) と認定した (環境庁 2000).

ミヤマスカシユリは本田 (1942) によってコオニユリに近い新種として記載されたが, 茎は懸垂し, 上向きの 1 花をつけ, 花被片は基部で反曲せず, 雄蕊がより長いことなどによってコオニユリから区別された. しかし花がスカシユリに酷似することからミヤマスカシユリと名付けられた. 原 (1963) はミヤマスカシユリをスカシユリが秩父武甲山の石灰岩壁に適応した形として, スカシユリの変種とした. ヤマスカシユリは茎は立ち上がり葉の先は長く尖るのに対してミヤマスカシユリはヤマスカシユリに近いがさらに茎が細く垂れ下がり葉も狭いものであるという. ミヤマスカシユリは外部形態も花粉形態もコオニユリと異なっており, 一方これらの形態では明らかにスカシユリに類似する (Ohashi 1965). 清水 (1971) もミヤマスカシユリはスカシユリの変種とみて, その特徴は茎が弓状に下垂し (同書図 110 では実生栽培 3 年目でも変わらないという), 細く, 長さ 30–40 cm, 葉は広線形 (ヤマスカシユリは狭皮針形), 開花期は 7 月中・下旬であるとした.

吉田はかねてから岩手県気仙郡住田町上有住小松, 標高約 200 m の鏡岩と呼ばれる石灰岩岩壁にミヤマスカシユリに似たユリが生育していることに注意していた. この岩壁は高さは 15–17 m, 海岸まで東へ直線距離で約 25 km の内陸にある. 吉田は 2003 年 6 月 22 日に現地を訪れた. 当時鏡岩には 24–28 個体生育していたが, 茎の立ち上がるヤマスカシユリ

と垂れ下がるミヤマスカシユリ型のものが見られた. 吉田は岩壁から垂れ下がり 1 花をつけるもの 1 個体, 岩壁から開出してほとんど垂れ下がり 1 花をつけるもの 1 個体 (Fig. 1, A), および岩壁下の石灰岩上に生育して少し斜上して 4 花をつけるもの 1 個体 (Fig. 1, B) を採集し, 大橋に送付した. 一方, 上野は宮城県白石市小原, 標高 190 m の岩場にある個体群は茎は垂れ下がり, 葉は細長く, 1 花をつけることで, ミヤマスカシユリとよく似ていることに注目していた. 大橋はこれら岩手・宮城の標本と東北大学大学院理学研究科植物標本館 (TUS) 所蔵標本とを併せて検討してみた.

住田町産標本 3 個体は茎が円く, 長さ 48–65 cm, 開出する細毛が多く, 葉は広線形 (長狭卵形), 茎中部の葉でおよそ長さ 75–110 mm, 幅 8–10 mm, 鋭先形. これらはタイプ標本 (武蔵国武甲山, 1941 年 7 月 18 日, 清水大典, TI) よりも葉がやや密につき, 花数の変化があるが, タイプによく一致する. この形は鈴木他 (1981) 茨城県植物誌口絵のミヤマスカシユリによく似ている. 白石市虎岩と大萩山からの標本は小形で 1 花をつけ, 茎は懸垂あるいは開出していたと思われるもので, 虎岩のものは茎は長さ約 23 cm である. 葉は広線形, 茎中部でおよそ長さ 60–80 mm, 幅 4–7 mm, 鋭先形である. 材木岩のものは 3 個体あり, 大型で茎は長さ 45–65 cm あり, いずれの個体も広線形鋭尖形の葉を密につけ, 3–4 花をつける. 以上のように, 住田町と白石市のものはいずれもミヤマスカシユリに当たるものと考えられる.

ミヤマスカシユリは茎の傾きに関係なく花が上向きに咲く. ふつう 1 花をつけるが花数には変異がある. 花数は個体の栄養状態で変化し, 岩上の土壌が少ない状態のものは養分吸収が少なく 1 花だけをつけるのであろう.

1 花であることはミヤマスカシユリ固有の特



Fig. 1. *Lilium maculatum* Thunb. var. *bukosanense* (Honda) H. Hara. A: Spreading form growing on Kagami-iwa limestone cliff. Japan. Iwate-ken, Kesen-gun, Sumita-machi, Kamiarusu. 29 June 2003. Photo by Shigeru Yoshida. Voucher specimen: TUS 289090. B: Ascending form growing on a limestone rock. Locality and photographer as in A. Voucher specimen: TUS 289091.

徴ではないと思われる。ミヤマスカシユリの茎が直立しないのは遺伝的性質か否か検討を要するが、茎の斜上、開出、下垂の状態は個体変異の範疇であると考えられる。茎が下垂するのは植物体上部の重さと岩壁に生える条件とに係わるものであろう。

ところで、ユリの研究者であった清水基夫氏は1973年7月3日に撮影された住田町上有住海拔300 mの地で農家の古屋根にスカシユリが一面に咲いている写真を見たと言っている(清水 1981)。これはヤマスカシユリの可能性もあり、付近の自生ユリと同じ種類であるともいう。残念ながらこの写真は公表されなかった。上有住ではヤマスカシユリとミヤマスカシユリの花期は例年6月下旬から7月上旬、スカシユリは上有住に自生せず海岸地域に限られていて三陸海岸南部では7月下旬から8月下旬である。この点から、清水氏の記録はヤマスカシユリあるいはミヤマスカシユリである可能性がある。吉田は2003年7月25日から数回にわたって上有住を訪れたが、今日ではかや葺屋根や藁葺き屋根は残っていない。写真の場所は特定できなかったが、鏡岩に隣接する小松地区の集落で農家の人々に聞くと、1960年頃まで藁葺き屋根が残っており、その頃屋根に生えていたのはオニユリであったという。しかし、オニユリの花期は8月である。結局、30年前にあったとされる上有住のスカシユリあるいはヤマスカシユリがミヤマスカシユリか否かを再確認することはできなかった。なお、スカシユリを屋根に植える例は亘理(1991)の「芝棟」にあり、上述の清水氏の記録の他に亘理による群馬県高山村の一例と岩手県種市町の報告(猪苗代1976)とが紹介されている。しかし、種市町の報告例の中にはむかごがあるとあり、オニユリの誤認も含まれていることが分かる。

以上のようにミヤマスカシユリは岩手県と宮城県にも分布し、その北限は現在のところ岩手県気仙郡住田町上有住小松の鏡岩であると思われる。

*Lilium maculatum* Thunb. var. *bukosanense* (Honda) H. Hara in J. Jpn. Bot. 38: 249 (1963);

Shimizu, Nihon no yuri: 176, figs. 29, 258 (1971); Suzuki & al., Fl. Ibaraki Prefecture: 136 (1981).

証拠標本。岩手県気仙郡住田町上有住小松、鏡岩 Iwate-ken, Kesen-gun, Sumita-machi, Kamiarusu, Komatsu, Kagami-iwa. 29 June 2003. S. Yoshida (TUS 289090-93), Cult. In Sendai-shi. H. Ohashi 670705 (TUS 289094). 宮城県白石市小原、材木岩 Miyagi-ken, Shiroishi-shi, Obara, Zaimokuiwa. 20 June 1952. S. Sugaya, H. Ogura & C. Kimura (TUS 25653-57, 25660), 同市虎岩 Shiroishi-shi, Toraiwa. 19 June 1978. R. Suzuki (TUS 67965), 同市大萩山 Shiroishi-shi, Mt. Ohagi. 20 June 1982 Y. Suzuki (TUS 99316), 同市小原 Shiroishi-shi, Obara, alt. 190 m. 29 Aug. 2003. Y. Ueno 40623 (TUS 288858).

#### 引用文献

- 原 寛 1963. ヤマスカシユリ. 植物研究雑誌 38: 248-249.
- 本田正次 1942. Plate CXXVIII. *Lilium bukosanense* Honda みやますかしゆり. 中井猛之進(監輯) 東亜植物図説 4 (3): 403-404, t. 128.
- 猪苗代正憲 1976. かやぶき屋根の植物 (2). 岩手植物友の会会報 (13): 13-15.
- 環境庁(編). 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック. 植物 I (維管束植物) 2000. 自然環境研究センター.
- Ohashi H. 1965. A taxonomic study of *Lilium maculatum* Thunberg s. lat. with a special reference to its pollen morphology. Sci. Rep. Tohoku Univ. ser. 4, Biol. 31: 93-103.
- 鈴木昌友, 清水 修, 安見珠子, 安 昌美, 藤田弘道, 中崎保洋, 和田尚幸, 野口達也 1981. 茨城県植物誌. 茨城県植物誌刊行会.
- , 塙 佳子 1965. ミヤマスカシユリの産地. フロラ茨城 (30): 6.
- 佐竹義輔 1982. ユリ科. 佐竹義輔他(編), 日本の野生植物 I 草本単子葉類. 平凡社.
- 清水基夫 1971. 日本のユリ. 誠文堂新光社.
- 1981. カヤ葺屋根に生えるユリ. レポート日本の植物 (9): 84-85.
- (編著) 1987. 日本のユリ 原種とその園芸種. 誠文堂新光社.
- 白石市植物誌編集委員会 1983. 白石市植物誌. 白石市植物誌刊行会.
- 亘理俊次 1991. 芝棟. 八坂書房.

(\*東北大学大学院理学研究科  
附属植物園津田記念館,

029- 陸前高田市

仙台市野草園)